

(開始 午前 10時 49分)

議長 (萩原由一)

3番 山本隆樹 議員。

(「はい、議長。3番。」の声あり)

(3番 山本隆樹 議員 登壇)

1. 木島平観光株式会社への支援補助金 5,000 万円について

3番 山本隆樹 議員

では通告に基づき、2点質問させていただきます。

村長の令和4年の施政方針の中で、「村にとって観光は農業に次ぐ大きな産業だ。令和4年度は観光施設の今後の方針を決定する年度です。持続可能な村づくりのためにも、ポストコロナに向かっていく」という方針が出ています。

そこで、今後の観光行政について2点質問させていただきます。

先ほどの江田議員の質問と重複する項目がありますが、通告どおり質問いたします。

1点目、木島平観光株式会社への支援補助金 5,000 万円についてです。

令和2年の寡雪に始まり、令和3年の新型コロナウイルス、令和4年の新型コロナウイルスオミクロン株の蔓延により、観光業は大きなダメージを受けており、特に村の観光行政を牽引する、木島平観光株式会社の経営状況の悪化が著しいと認識しています。

特に今シーズンの団体客が、全てキャンセルになったということもあり、この団体のキャンセルによる損失は、1億1,800万円を超えると試算されています。この木島平観光株式会社に対する支援補助金として、令和3年度一般会計補正予算(第8号)で5,000万円が計上され、3月3日に可決されました。

私も、木島平観光株を存続させ、木島平村の観光行政を維持していくためにも、今回の5,000万円の公費投入はやむを得ないと考え、賛成いたしました。3月3日の本会議で討論し、可決となっております。

そして、村民の皆様にもこのことが更に理解が深まるよう、また、行政側も5,000万円の重みをさらに認識して今後の対応をしていただくよう質問させていただきます。

今回の5,000万円が可決されましたが、この予算が認められなかった場合、村の観光行政はどうなっていたのか、どうなるのか。その際、木島平観光株式会社が管理していたパノラマランド、スキー場、馬曲温泉、やまびこの丘公園、そして、木島平村の観光行政そのものの未来予想はついていましたのか。具体的にお答えいただきたいと思っております。

議長 (萩原由一)

日基村長。

(村長「日基正博」登壇)

村長 (日基正博)

それでは山本議員の「木島平観光への支援金について」のご質問であります。

江田議員への答弁の中でもお話をさせていただきましたが、木島平観光につきましては、村の政策会社として、村の主要な観光施設を運営しております。地域経済への影響が大きい施設を運営しているということでもあります。

そうしたことから、施設の営業を止めることはできないというふうに判断をし、運営に対する支援の予算を計上させていただきました。

さきに行いました議会本会議で支援補助金も含め、補正予算案を全会一致でご承認いただき深く感謝を申し上げます。

以下、「仮に」ということでもありますので、その場合についての状況について産業課長に答弁をさせます。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、山本議員のご質問に補足をして答弁をいたします。

「仮に」という話でございますが、今回の予算が否決された場合については、まだまだコロナの影響も大きく、運営の資金繰りが大変厳しい状況でありますので、あらゆる支払いができなくなる状態になったと想定されています。

したがって、このままですと、会社として事業を停止すなわち倒産もせざるを得ない状況になってしまったと思われまます。また、村が代わって運営を再開することも現実的に困難であります。村には、観光事業に関わる方も多く、村の施設として現時点で事業をやめることはできないと判断し、事業継続のための支援金としてお願いした次第でございます。

議長（萩原由一）

山本隆樹 議員。

再質問

3番 山本隆樹 議員

わかりやすく自分として理解したことは、この5,000万円がなければ、会社として事業停止、倒産せざるを得ない。そして、管理運営していたパノラマランド、スキー場、馬曲温泉、やまびこの丘公園も事業停止となる。そうなってしまえば、倒産の整理、管理していた施設の維持管理もできず、荒れていって、再生するにも何倍の労力がかかってしまう。それを防ぐためにも、観光に関わる方々のためにも民間譲渡の可能性を前提にするためにも5,000万円が必要であったと理解してよろしいでしょうか。

それと、10月1日に向かって民間譲渡の可能性を探ってるってお聞きしてますが、資金不足が更にその前に陥ってしまった際、同様に公費投入っていうシナリオっていうのか、そういう可能性はあるのでしょうか？

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

それでは、山本議員の再質問にお答えをいたします。

1点目、そのように理解をしていただいて間違いありません。

それと2点目ではありますが、「さらに公費投入」ということでありますけれども、江田議員の中にもお話をさせていただきましたが、早急に民営化を進める中で更に公費投入することのないように事業を進めていきたいと思っております。

議長（萩原由一）

質問の途中ですが、ここで暫時休憩といたします。

再開は、午前11時10分をお願いします。

(休憩 午前 10時 58分)

(再開 午前 11時 10分)

議長（萩原由一）

休憩前に引き続き会議を開きます。

3番 山本隆樹 議員。

2. 観光施設の民営化について

3番 山本隆樹 議員

先ほど1番目の質問の5,000万円の支援が、この後の木島平の観光行政に繋がるよう取り組んでいていただきたいと思っております。

そこで、2番目の質問、観光施設の民営化についての質問に入ります。

令和4年2月24日に開催された第1回木島平村議会定例会「行政報告」において、「観光施設や観光事業については、環境の変化に素早く対応できる組織体制や専門的な経営戦略が求められている。そういったことから、民間の力をお借りしながら、効率的かつ効果的に地域活性化のため、施設の民営化や施設のあり方も含め検討している」との報告がありました。

観光施設の民営化が現実味を帯びてきたと考えています。

次の6点について質問いたします。

1、民営化の現在の進捗状況について伺う。

2、民営化の具体的な時期について伺う。

3、民営化の具体的な方法や、仮に民間譲渡、あるいは民間売却した際の相手について、また、累積赤字、借入金、株式の処分と対応について、わかる範囲もしくは想定できる範囲でお答えいただきたい。

4、民営化に当たって、老朽化したリフト、スノーマシン、パノラマランド、馬曲温泉の設備修繕やメンテナンス、インフラの維持、誘客の手法など、民と公のすみ分けが大変重要と考える。現時点での考えや今後想定される事案と対応について伺う。

5、民営化された際、この木島平の観光行政にどのような影響があるのか、想定されるメリット、デメリットについて伺う。

6、もし民営化ができなかった場合どうなるのか。具体的にお答えいただきたい。

議長（萩原由一）

日基村長。

（村長「日基正博」登壇）

村長（日基正博）

はい、山本議員の「木島平の観光施設の民営化について」というご質問であります。

民営化の基本的な考え方については、江田議員のご質問の中で回答をさせていただきましたので、省略をさせていただきます。

個々の回答については、産業課長からの答弁をいたします。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、山本議員の質問に村長の答弁の補足をしてお答えをいたします。

まず2点目「民営化の具体的な時期」、それと5点目「民営化された際のメリット・デメリット」最後「民営化できなかった場合、どうなるのか」というご質問については、江田議員に回答のとおりでございますのでお願いをいたします。

それでは1点目、「観光施設の民営化の進捗状況について」ということであります。

現在、土地を含めた資産と施設の運営会社である第三セクター木島平観光株式会社の情報を整理しているところであります。今後、企業に対する提供、プレゼン資料を作成しているところで、資料ができた段階で企業募集等を行っていきたくと考えております。

3点目のご質問です。「民営化の具体的な方法や仮に民間譲渡した際の相手について、また、負債等の対応について」ということでございます。

具体的方法については、施設を譲渡し、施設維持に係る経費の負担軽減と事業運営について民営化をしていきたいと考えております。

なお、現在の負債については、村が負担することのないよう検討していきたいと思っております。

譲渡先については、今後、資料作成した後、条件を提示しながら募集し、また可能性のある企業と協議をしていく、交渉していくということになります。

4点目「民営化にあたり、老朽化した施設の整備費用や誘客の手法など、民と公のすみ分けが重要と考える。現時点での考えや想定される事案について」ということでございます。

民営化の条件として、想定される事項として基本的に民営化の指標となる基準としては、今のこの施設でどのぐらいの収益が上がっているのか。民営化後の運営会社が、今後どのぐらいの収益を見込むのかが大きな基準となります。

したがいまして、民営化のため村が施設に対する経費をどこまで負担できるかも、大きな交渉事項になると考えております。

村の産業においても主要な施設ということで、取得する資産に対する固定資産税の軽減や事業に対するPR経費など、連携支援も必要になると想定をしております。

以上でございます。

議長（萩原由一）

山本隆樹 議員。

再質問

3番 山本隆樹 議員

では再質問に入らせていただきます。

江田議員にも回答がありました、民営化のデメリットとして、例えば施設等資産を譲渡することによる想定外の転売、事業休止による施設の放置等のおそれがある。そういうこともあり得ると思います。また、これから民営化のため、村が経費をどこまで負担できるか、これも大きな判断になると思います。

そこで、村として本当に有利に働きかけ、デメリットをなくしていくにはどうしたらいいのか。どう思っているのでしょうか。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、山本議員の再質問にお答えをいたします。

民営化によりまして「想定外のデメリットも当然あると、村が有利に進めていくにどう考えていくか」ということでございますけれども、当然、例えば資産の譲渡をした場合について想定されることは、江田議員の回答の中でもお答えをしたとおりであります。

ただ、村としても、ある程度主要な産業施設、また雇用の場でもございますので、その辺も相手企業との交渉の一つとして捉えております。村が経費負担をどのくらいしていけば、お互い連携した事業展開が図れるのかということも総合的な将来的なことも考えながら、経費負担を交渉として進めていきたいと思っております。村が有利に進めるというよりも、今の施設を将来的にどういうふうに維持をしていくか、行政経費をいかに減らして維持をしていくか、ということも考えていきたいと思っております。

議長（萩原由一）

山本隆樹 議員。

再々質問

3番 山本隆樹 議員

先ほど言った、そのデメリットを有利に動かしていく方策なんていうのは、本当にそう簡単にあることではありませんけども、本来、やはり木島平の魅力を作り上げていくことだと思います。

観光のあり方が変わってきています。「訪れてよし」から「住んでよし」の観光政策が求められており、「農ある暮らし」「二拠点生活」等、村の存続をかけたの挑戦が今求められており、観光施設の民間譲渡に頼るだけでなく、やはり村が魅力を発信していくことが、このリスクを少なくしていく対策だと自分は思っています。

村長も先ほど言ったように、観光は農業に次ぐ産業だ。持続可能な村づくりのためにも、ポストコロナに向かっていかなければならない。木島平の魅力を作り上げて、そして発信していくことが一番のリスクのテーマだと思っております。それについて、村長のお答えを聞きたいと思っております。

議長（萩原由一）

日基村長。

(村長「日基正博」登壇)

村長（日基正博）

はい、おっしゃるとおりであります。

今回民間への譲渡というふうに提案をさせていただきましたが、言ってみればその分、今度村の方は、村の魅力の情勢そしてまた発信に、より一層力を入れていくことができるのではないかと考えておりますので、また皆様方のご支援、ご協力をお願いしたいと思います。

議長（萩原由一）

以上で、山本隆樹 議員の質問は終わります。

(終了 午前 11時 21分)